

AFACT 運営会議報告

2014年5月29日～5月30日

チェンマイ (タイ)

報告者：SIPS 事務局長 菅又 久直

I. 会議日程：

- 5月28日(水) 東京発 バンコク経由 チェンマイ着
- 5月29日(木) AFACT 運営委員会 (StC) 会議/AFACT 技術手法委員会 (TMC) 会議
- 5月30日(金) AFACT 技術手法委員会 (TMC) 会議/AFACT 運営委員会 (StC) 会議
- 5月31日(土) チェンマイ発 バンコク経由
- 6月1日(日) 東京着

II. 会議参加の目的：

アジア各国で協力して、効率的で相互運用性のあるグローバルサプライチェーンのための情報基盤を構築することを目指して、アジア各国の代表と技術的・手続的課題を審議するためにAFACT会議（運営委員会および技術・手法委員会）に参加した。

- ◇ AFACT（アジア太平洋貿易手続簡易化と電子ビジネス促進センター）：国連 CEFACT が開発した貿易円滑化と電子ビジネスに関する国際標準等の普及を図るために、国連 CEFACT アジア地区ラポーターと連携して活動する非営利の団体で、現在アジアの19カ国・経済圏が参加している。

なお、今回の会議は、タイ政府の外郭団体 ETDA (Electronic Transaction Development Agency) が会議を運営した。

III. AFACT 会議総括：

AFACT は、1年毎に異なるメンバー国が議長国となり、運営委員会と総会の2回のイベントを主催する。2014年はタイが議長国（2010年：日本、2011年：台湾、2012年：イラン、2013年：ベトナム）で、今回のチェンマイにおける運営委員会とバンコクでの総会（11月末）が予定されている。

- ◇ チェンマイはタイ北部にある、タイ第2の都市である。ラーンナータイ王国の首都として、メンラーイ王により1296年4月12日建造された。

今回の会議には、日本（小生を含め、3名）、韓国、台湾、タイ、イラン、ベトナム、インドの7カ国、約30名が参加した。

小生（SIPS 事務局長：菅又久直）は、技術手法委員会（TMC）の委員長の立場で、運営委員会（StC）および TMC/CSC 合同会議に参加した。

IV. AFACT 技術手法 (TMC) 委員会&コミュニティ支援委員会合同会議：

TMC/CSC 合同会議には、4 カ国（台湾、日本、韓国、タイ）から 6 名が参加し、国連 CEFACT 技術動向、アジア地域 CCL (Core Component Library) 利用促進、SOA (Service Oriented Architecture) 相互運用フレームワーク、およびクラウド・コンピューティング相互運用性につき審議を行った。

(1) 国連 CEFACT 技術動向

本年 4 月の国連 CEFACT フォーラムにて議論になった技術テーマにつき、小生が説明を行った。カバーしたテーマは次の通り。

- ① 手法・技術 PDA 新プロジェクト：次の 2 つのプロジェクトが開始された。
 - ・国連 CEFACT 標準のコンフォーマンスの定義およびその利用についてのガイド (Information Note) 策定プロジェクト。
 - ・国連 CEFACT の各種辞書 (EDIFACT ディレクトリ、CCL、Code リスト、XML メッセージ・スキーマなど) の開発・保守のやり方につき、現状の手続きの恣意的部分の改善、およびあるべき姿の提案を行うプロジェクト。
- ② サプライチェーン PDA 新プロジェクト：注文時融資 (Purchase Order Finance) の申込みとそのフォローについての新メッセージ策定プロジェクト。
- ③ 公共調達における EU ディレクティブ：公共調達における入札の電子化は 2017 年までに、電子インボイスは 2020 年までに実現することについてのディレクティブが発行された。
- ④ BPS 進捗状況：CCL13B (CC：6391、BIE：10089、XML メッセージ：94) が発行された。

(2) アジア地域 CCL (Core Component Library) 利用促進

小生より、SIPS が進める業界横断データ辞書およびメッセージ辞書についての登録簿モデル (Registry Data Model) と登録手続について紹介した。

また、SIPS における次の活動計画 (2014 年度) につき紹介した。

- ・次の分野における領域メッセージの開発
 - －航空機製造業界
 - －中小自動車部品製造業界
 - －PO Finance 用支払依頼メッセージ
- ・バンコクにおける日系企業間の業界横断メッセージによる実証実験。
- ・XML/PDF メッセージの実用化研究。

- ・メッセージ辞書登録簿の実証。

それらの紹介を基に、AFACTにおけるCCL活用促進の提案を行った。

- ・各国における国連CEFACT CCLの自国語対応版整備。
- ・各国における国連CEFACT CCLをベースにした業界メッセージの定義。
- ・各国における業界メッセージ辞書登録簿の開発。

以上につき、出席者より以下の意見が出された。

- ・タイではISO26324 (DOI: デジタルオブジェクト識別子) に準拠したレジストリ・システムを構築している。AFACT 統合レジストリ (ROR: Registry of Registry) においても当該標準を参照すべき。
- ・韓国で導入しているレジストリ (REMKO) は、あまり使われていない。ROR 導入においては、活用されるように利用目的を明確にした方が良い。
- ・AFACT においては、レジストリのみならず、共有リポジトリ (メッセージ辞書やコードリストなど) も必要となろう。
- ・AFACT ROR の導入・運営につき、体制と方法について検討すべきである。

レジストリの導入促進につき、次のアクションを合意した。

- ✧ 日本 (SIPS) は実証する日本版レジストリのデモ・キットを準備する。
- ✧ CSC 議長は、当該デモ・キットを活用した普及促進計画を策定する。

(3) SOA (Service Oriented Architecture) 相互運用フレームワーク

韓国の Youngkon Lee 氏 (Korea Polythec University) より、SOA サービスモデリングガイドライン作成は完了したとの報告がなされた。

シングルウィンドウの SOA 適用の促進につき、次のアクションを合意した。

- ✧ AFACT TMC は、当該プロジェクトを一時中断し、SOA 導入に関わる新たなプロジェクト提案を待つ。
- ✧ AFACT 事務局に対し、完成した SOA サービスモデリングガイドラインを WEB 上で公開するよう要請する。

(4) クラウドコンピューティングに関わる新プロジェクト

台湾の Zonyin Shae 氏よりクラウドコンピューティング WG の提案が行われた。

目的:

- ・クラウド上の、仮想マーケットプレースの相互運用性を実現する、様式と方式の標準を確立する。
- ・特定のベンダー製品によらない、標準環境におけるアプリケーションとサービスを展開する (クラウド・アプリケーションのための「アプリケーション・ストア」)。

同氏より、上記目的に沿った、クラウドコンピューティングによる旅行・レジヤ用アプリケーションの紹介が行われた。

以上の説明に基づき、次のアクションが合意された。

- ✧ TMC はクラウドコンピューティング WG を TMC の下に設置することを運営委員会に提案する。

(5) PDF/XML による電子インボイスの普及について

議長（菅又）の要請により、タイの Wanawit Ahkuputra 氏（ETDA）が EU の電子インボイスの推進状況、およびタイにおける PDF/XML の標準化と CII（Cross Industry Invoice）の導入について紹介した。

- ① EU における電子インボイス（SWIFT の Devid Dobbing の講演 PPT）
 - ・ EC では国連 CEFACT CII を共通の標準として推薦している。
 - ・ 商流は国連 CEFACT CII、金流は ISO20022 で情報連携が望ましい。
- ② タイにおける PDF/XML の導入（ETDA）
 - ・ Adobe の XML 書式アーキテクチャ（XFA）を紹介。
 - ・ XFA に基づく Acrobat および LifeCycle を使った PDF/XML 導入事例紹介。
- ③ タイにおける CII（Cross Industry Invoice）の導入（ETDA）
 - ・ タイでは、ECE 勧告 1 号、14 号、33 号と国連 CEFACT CII 標準を UNNExT のガイドラインに基づき導入。
 - ・ e-Tax Invoice/e-Receipt は CCL（国連 CEFACT 共通辞書）に準拠、支払指図（Payment Instruction）は ISO20022 に準拠。それらのメッセージ交換サービス（TEDA）を提供している。
 - ・ TEDA では、電子インボイスの保管サービス、タイムスタンプ・サービス、国際 CII アダプターなどを提供。また、TEDA にはメッセージ辞書管理の仕組み（OID RA：レジストリ、CMR：メッセージ・リポジトリ）を持つ。

（注）TDEA のメッセージ辞書管理の仕組みは、SIPS が構築中の業界横断データ辞書のコンセプトと同じであり、今後 AFACT ROR 推進に積極的な協力が得られるものと期待できる。